

慶賀新年

本年行事予定

一月 一日 午前八時 修正会（元旦のお参り）

二月十五日 午後一時 定例法座

三月二十日 午後一時 春季彼岸会法要

四月十五日 午後一時 定例法座

五月十五日 午後一時 花まつり法座

六月十五日 午後一時 定例法座

七月十五日 午後一時 定例法座

八月十六日 午後一時 孟蘭盆会法要

九月八～九日 宗祖聖人報恩講法要

九月二十三日 午後一時 秋季彼岸会法要

十一月十五日 午後一時 定例法座

十二月十五日 午後一時 定例並びに大掃除

2017(平成29)年

北広島市大曲緑ヶ丘2丁目16-1 011-376-2255

浄土真宗本願寺派 興徳寺

<http://www.bea.hi-ho.ne.jp/kentyan/>

ゲーテの「アウグスト」の中に「大間は努力する限り迷うものだ」の一文がある。何かを為そうとする場合、ただの一度も迷わずに為した人間はいないだろう。高い目標を掲げれば掲げるほど迷うものだろう。逆に言えば迷わない人間とは「何も努力しない」ということにならないか。人間の歴史は迷いに迷いを重ねて現代があるということであろう。困ったことに我々は迷いながら迷っている己の姿に「気づかない」ということだ。迷っていることが知ればそれは迷いにならないのだ。迷いがあるからこそ決断も生まれ、強い意志になるのではないか。これは西洋の人間ばかりか、仏教の思想にも流れている。大愚と称した良寛和尚、愚痴と称した法然上人、そして愚禿と称した親鸞聖人、迷い続けの一生でしながら、あの、たくましさは何だったのか。迷っていることを卑下し、必要以上に苦しまなくていいと思う。迷うことは真剣に努力していることだと、先師たちは実証してくれているではないか。生涯（迷え、悩め）それが人間に課せられたたった一つの救いの道であろう。現代は迷わない近道を選ぶことが目標になつて生きているように思えるが…